

平成 19 年 2 月 8 日

各 位

財団法人 西日本国際財団

「第 8 回（平成 18 年度）西日本国際財団アジア貢献賞」  
「第 2 回西日本国際財団アジア Kids 大賞」  
受賞者決定のお知らせ

西日本国際財団（理事長 新藤 恒男）ならびに西日本シティ銀行（頭取 久保田 勇夫）は、平成 12 年に財団設立 15 周年を記念して「西日本国際財団アジア貢献賞」を創設し、以来、毎年、九州・山口地域においてアジアとの国際交流に貢献している団体・個人を顕彰しております。また、昨年、財団設立 20 周年記念特別表彰として「西日本国際財団アジア Kids 大賞」を創設しましたが、今回それを継承し、国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献している小・中学校等を表彰いたします。

それぞれの平成 18 年度受賞者が下記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 第 8 回「西日本国際財団アジア貢献賞」

## (1) 受賞者

(敬称略)

受賞者	活動地域	分野	活動内容
小さな国際交流の会 代表 野口 照代	福岡	人物交流 人材育成	20 年間にわたり日本在住外国人へ日本語教育を通じて言葉・習慣・作法等を指導
上野 茂	タイ・ラオス マレーシア 大分	医療・ 福祉援助	自らも障害を持つにもかかわらず、アジア諸国の障害者へ、車椅子製造技術を伝道し、現地の福祉向上に寄与
特定非営利活動法人 国際協力の会 M I S 代表 古賀 等	ミャンマー 佐賀	医療・ 福祉援助	現地への浄化システム設置・定期的なメンテナンスによる医療活動支援

受賞者の詳細は別紙をご参照ください。

## (2) 表彰の内容

受賞者には賞状と、副賞として 100 万円および記念品を贈呈いたします。

## (3) 表彰式

平成 19 年 3 月 8 日(木)14:00 よりホテルオークラにて表彰式を開催する予定です。

## (4) 推薦状況

九州・山口地域の各県・政令都市の国際部門、国際交流協会等から平成 18 年 9 月末までに推薦を受けた候補の状況は次の通りです。

【県別】

福岡	佐賀	熊本	宮崎	長崎	大分	鹿児島	沖縄	山口	合計
4	2	2	2	1	2	1	1	1	16

【分野別】

人物交流・人材育成	スポーツ・文化	医療・福祉・経済発展援助	合計
8	3	5	16

2. 「第2回西日本国際財団アジア Kids 大賞」

(1) 受賞団体

(敬称略)

受賞団体	活動地域	活動内容
佐賀県柔道協会 三神支部 支部長 緒方 勝一	韓国 佐賀(鳥栖市)	20年にわたっての韓国の柔道協会との国際交流事業
対馬市立 雞知 <sup>けち</sup> 中学校 校長 小島 徳重	韓国 長崎(対馬市)	生徒会の専門活動「国際理解部」を設置、韓国新仙中学校とのホームステイ等を通じた国際交流事業

受賞団体の詳細は別紙をご参照ください。

(2) 表彰の内容

受賞団体には賞状と、副賞として30万円および記念品を贈呈いたします。

(3) 表彰式

平成19年3月8日(木)14:00よりホテルオークラにて表彰式を開催する予定です。

(4) 推薦状況

九州・山口地域の各県・政令都市の国際部門、国際交流協会、教育委員会等から9月末までに推薦を受けた候補の状況は次の通りです。

【学校等団体別】

小学校	中学校	その他活動団体	合計
6	6	4	16
福岡・佐賀・大分	福岡・佐賀・長崎・大分	福岡・佐賀	

3. 選考経緯

平成18年7月～8月 各機関・団体に推薦を依頼

9月末 推薦締め切り

(アジア貢献賞16候補・アジア Kids 大賞16候補受付)

11月16日 選考委員会(委員長 長友 泰明)にて、それぞれの候補の中から各6候補を選定

平成19年1月22日 審査委員会(委員長 田中 健藏)にて、それぞれの6候補からアジア貢献賞受賞3団体・個人、アジア Kids 大賞受賞2団体を決定

以上

本件に関するお問い合わせ先  
西日本国際財団 事務局 渡辺 TEL092 - 476 - 2154

## 西日本国際財団アジア貢献賞の概要

西日本国際財団は、昭和60年3月、西日本シティ銀行（旧西日本銀行）の普銀転換、並びに創立40周年の記念事業として設立されました。

以来今日まで国際交流を推進することにより、国際相互理解の促進、国際的人材の育成、及び地域との交流を目的として事業を続けて参りました。

平成12年3月、財団設立15周年を迎えるにあたり、九州・山口地域において、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を表彰し、国際交流の輪を広げようという趣旨でこの顕彰制度を設けました。

### 1. 対象

原則として九州・山口地域に居住し、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を対象とします。

### 2. 基準

- (1) 人物交流・人材育成
- (2) スポーツ・文化
- (3) 医療・福祉・経済発展援助

の範囲の中から3団体（個人）程度を表彰します。

但し、研究部門及び営利を目的とする団体（個人）を除きます。

### 3. 表彰内容

表彰基準に照らし、国際貢献の努力と成果において最も相応しい団体（個人）を選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、顕彰金及び記念品を贈呈します。

## 西日本国際財団アジア Kids 大賞の概要

西日本国際財団創立20周年記念特別賞として「西日本国際財団アジア Kids 大賞」を創設、以後これを継承、国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献している小・中学校およびその周辺で活動している地域子ども団体を表彰します。

### 1. 対象

原則として九州・山口地域にある、小・中学校およびその周辺で活動している地域子ども団体を対象とします。

### 2. 基準

上記1.の対象者が行う国際交流事業、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献し、なおかつ、継続性・相互性・自立性・教育性の要件を備えるもの。

### 3. 表彰内容

表彰基準に照らし、最も相応しい学校・団体を選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、副賞賞金および記念品を贈呈します。

以上

## 第8回西日本国際財団アジア貢献賞 受賞者の活動内容

### 小さな国際交流の会（活動分野：人物交流・人材育成）

（1987年設立・代表：野口 照代 氏・活動地域：福岡県）

- 困っている人がいれば手を差し伸べ、ハッピーであれば一緒に喜びたい - をモットーに昭和62年（1987年）にこの会を発足させる。と同時に活動を通して、地球レベルの視野を持つ人材の育成を切に願ってのスタートだ。

福岡の外国人は当時留学生だけといった時代、相互理解のためのイベント（フリートーク・卒業おめでとうパーティー・山登り等）には、どの会場も人が溢れ活発な国際交流がなされた。

平成2年（1990年）から日本語教室を活動の中心に据え現在に至るが、この16年間の日本語教室参加外国人数は、約56,200人（40数カ国）、日本語教室実施回数は約4,350教室（ボランティアスタッフ数1教室あたり3~5人）になる。平成11年（1999年）には「第14回キワニス社会公益賞」<sup>1</sup>を受ける。今後も『日本語上達のお手伝い』を続けていくことになるだろうが、日本語を介して国際交流を深めることは世界の平和にわずかでも貢献することになるだろうし、また日本語を理解し話せる人が増えるほどに経済面へも影響することになり、「ボランティア」がもう1つの国力にもなりうると信じている。

<sup>1</sup> 「キワニス社会公益賞」社会奉仕団体であるキワニスクラブが、社会公益のために世間に知られず酬いられることも少なく永い間献身的労苦を続けている人達を広く探し求め、毎年一件に贈る賞。

### 上野 茂 氏（活動分野：医療福祉援助）

（活動地域：タイ・ラオス・フィリピン・ベトナム・バングラデシュ・インド・スリランカ・マレーシア・カンボジア・大分県別府市）

1992年に朝日新聞厚生文化事業団の要請で、アジアの車いす製造技術および修理技術指導を始めたのをきっかけに、現在まで東南アジアで技術指導支援活動を行っております。10年間タイにて、ラオス、フィリピン、ベトナム、バングラディシュ、インド、スリランカ、マレーシア、カンボジアの障害者を対象に、車いす製造技術の研修を行いました。2000年よりNPO「難民を助ける会」と国際協力機構（JICA）との開発パートナー事業として、ラオスの国立リハセンターにて、車イス普及支援事業を継続して行っております。当センターは、ラオスで車いすを製造し提供する唯一の機関です。また2004年からは、社会福祉法人「太陽の家」とJICAの共同事業として、マレーシアの国立リハセンターにて車いす普及支援事業を行っております。

これらの事業では、現地の技師が自分たちの力で車いすの製造、配布できるようになる事を目標に、製図、採寸、溶接など製造に必要な多岐にわたる技術を指導しております。また、技術指導だけにとどまらず、工房（道具）の管理、機械のメンテナンス等、より質の高い車いすを製造できる環境づくりを徹底させるよう指導してきました。現在、ラオスでは年間600台、又マレーシアでは400台生産できるようになりました。最近ラオスでは、障害者スポーツが盛り上がり始めており、工房では車いすバスケット用の製造にも取り組んでおります。

## 第8回西日本国際財団アジア貢献賞 受賞者の活動内容

### 特定非営利活動法人 国際協力の会 MIS (ミズ) (活動分野：医療福祉援助)

(1972年設立・理事長：古賀 等 氏・活動地域：ミャンマー・佐賀県伊万里市)

「国際協力の会 MIS」が活動を始めてから14年経過した。ABA (アジア仏教徒協会) との出会いからの始まりだった。ABA は、アジアの各地で第二次世界大戦で亡くなられた人々の遺骨収集や慰霊法要を長年手掛けてきた組織である。

大戦中に多大な迷惑をかけたミャンマー (旧ビルマ) は、乳幼児の死亡率が非常に高いことを危惧した。その乳幼児の死亡原因は水に起因する下痢、赤痢、マラリアなどの感染症であった。ABA は、この幼い子供たちの命を救うために浄水機を贈ろうと、その任務を MIS (ミズ) に依頼した。MIS は依頼を受け、早速、上水道の第一人者である日水コン中央研究所の小島博士に協力を要請し、ミャンマー国内の水質調査を実施した。その調査結果を元に製作した浄水機1号機を1994年に設置した。その前年に、岡山県に本部がある AMDA (アジア医師連絡協議会) と“合同ヘルスプロジェクト”を組み、AMDA は医療面を、ABA は学校建設などの教育面を、MIS は浄水システム面を担当することになった。一号機に続き、二号機、三号機と依頼を受け、インパール作戦で最大の激戦地になったミャンマー中部のメティラ市内の病院、市場、寺院などに3基を設置した。

プロジェクト終了後は、当初からのメンバーの一員であった吉岡医師が新たに「ジャパンハート」を立ち上げた。現在、MIS、ABA、ジャパンハートの三つの組織が、新しくプロジェクトを組み、それぞれの持ち味を生かしながらミャンマーでの活動を展開している。今後、活動範囲をネパールまで広げるべく計画である。

## 第2回西日本国際財団アジアKids大賞 受賞者の活動内容

### 佐賀県柔道協会三神支部

(1977年設立・支部長：緒方 勝一氏・三神支部会員数：150名(平成19年1月現在))

活動地域：韓国(大邱市)・佐賀県

佐賀県柔道協会三神支部は佐賀県東部に位置する鳥栖市、基山町、みやき町、神崎市の柔道クラブ・協会で結成された団体です。当団体事業の一環として国際交流を目的に日韓親善少年柔道大会の開催による交流事業を行っています。

1979年、佐賀県日韓親善協会主催による日韓親善大会がソウル市で開催され、これを契機に1987年、柔道を通じて国際感覚を身に付け、社会に貢献できる人材の育成を趣旨に韓国大邱直轄市柔道協会との交流事業が始まり本年で20回を迎えます。

その事業内容は、三神支部内の各道場、クラブから小学生20名・中学生20名を選抜し日韓親善少年柔道団を結成、隔年おきに相互訪問を行っています。交流期間は、柔道大会、観光などを組み込んだ3泊4日の全日程で、その間子どもたちは、各家庭にホームステイや交流会で異国文化についても学んでいます。

また、大邱市が訪れた際にも同日程で交流を行っており、交流前は言葉や食文化の違いなどに不安を抱いていた子どもたちが、このような体験をすることで、コミュニケーションの大切さを知るとともに、異国文化の関心と理解を深めることができます。今後も交流事業を通じて国際性豊かな人材の育成を目指し継続していきたいと考えています。また、鳥栖市柔道協会と共催で西日本少年柔道大会の開催も行っております。この大会は、九州各県、西日本地区から小・中90チームが参加し、毎年5月3日に開催し45回を数えます。この大会にはオリンピックメダリストの古賀 稔彦・谷 亮子「田村」氏も参加された大会でもあり高く評価を頂いています。

### 対馬市立<sup>けち</sup>雞知中学校

(1947年創立・校長：小島 徳重・生徒数：164名・教職員数：19名)

(平成19年1月現在)活動地域：韓国・長崎県(対馬市)

平成5年(1993年)に大韓民国釜山市影島区にある新仙中学校と姉妹校関係を締結し、交流を開始した。平成9年からは大韓民国と日本を相互に訪問しながら、交流を続けている。

交流内容としては、夏季休業中に相互ホームステイし、学校交流会、地域研修、教職員同士の交流等を行っている。

ホームステイでは、お互いの生徒がそれぞれの家庭に2泊し、家庭生活を直に経験することで、文化の違いを実感できるようにしている。対馬市における地域研修では、厳原町にある万松院や長崎県立対馬歴史民族資料館を訪問し、朝鮮半島と対馬市との交流の歴史を学習する機会としている。

また、生徒会の専門部活動の1つとして「国際理解部」があり、大韓民国を中心とする外国文化の紹介のために掲示物等を作成したりして日常的に啓発活動を行っている。2学期には、国際交流報告会を設定し、交流を行った生徒が大韓民国訪問の様子、新仙中学校の生徒受入時の様子、交流によって自分が感じたことなどを発表している。これに併せて、海外滞在の経験がある外部講師をお招きして、国際交流講演会も開催している。

このような活動を通して、生徒は文化や習慣の似ている点や違う点を身をもって体験したり、これまでの交流の歴史を理解したりすることで、大韓民国を身近な国として認識するとともに、これからも積極的に交流し、お互いをより深く理解したいという気持ちをもつことができた。

「西日本国際財団アジア貢献賞」受賞者一覧

	受賞者・団体	活動地域	活動内容
第一回 平成 11 年度	谷口 巳三郎	タイ・熊本	タイで農業指導に尽力
	東 文子	鹿児島	28 年間にわたり留学生を支援
	朝鮮通信使縁地連絡協議会 代表 松原 一征	韓国・長崎	日韓交流に貢献
第二回 平成 12 年度	モンゴルに風力発電機を贈る会 代表 平原 洋和	モンゴル・都城市	廃品利用の風力発電機を開発し寄贈及び、 支援・交流等
	アジア女性センター 代表 松崎 百合子	福岡	アジア人女性の支援活動
	ネパール歯科医療協力会 理事長 中村 修一	ネパール・北九州	ネパールでの医療活動
第三回 平成 13 年度	池間 哲郎	アジア・沖縄	アジアの貧困地域についての講演活動
	片野 明子	福岡	草の根国際交流
	大分県大山町農業協同組合 組合長 三苫 卓爾	中国・大分	農業国際交流
第四回 平成 14 年度	NPO 法人地球市民の会 会長 古賀 武夫	タイ・スリランカ・ 佐賀	幅広い民間国際交流
	中国同人館 代表 田川 日出夫	中国・鹿児島	緑化支援運動・日中友好交流
	芦北町立佐敷小学校 校長 村山 正勝	カンボジア・ 芦北(熊本)	学校建設支援運動・国際交流
第五回 平成 15 年度	池田 広志	フィリピン ミンダナオ島	現地での農業指導・農村開発・ 環境保全運動
	山岳民族奨学基金プロジェクト 代表 福山 克己	タイ・佐賀	タイ少数民族山岳民族への支援活動
	玄海人クラブ 代表 兪 華瀆	韓国・佐賀・福岡	日韓草の根交流
第六回 平成 16 年度	郷土の文化と国際交流を考える 会 会長 平野 昭光	大分	23 年間にわたり 130 か国からの 留学生受入支援
	NPO 法人 宮崎国際ボランティアセンター 理事長 杉本 サクヨ	インド・宮崎	現地での養育支援事業・国内での 国際理解教育活動
	NPO 法人 シャンティ山口 代表理事 角 直彦	タイ・山口	タイ山岳少数民族への定住支援活動
第七回 平成 17 年度	カンボジア教育支援フロム佐賀 理事長 松尾 由紀子	カンボジア 佐賀	学校建設・教育支援活動
	カンボジア地雷撤去キャン ペーン CMC 代表 大谷 賢二	カンボジア・福岡・ 東京・愛知・大阪	地雷廃絶と被害者救援活動
	特定非営利活動法人 ジャっど 理事長 小幡 順子	ラオス 鹿児島	現地での保健衛生教育支援

「西日本国際財団アジア Kids 大賞」 受賞者一覧

第一回 平成 17 年度	太宰府市立太宰府西小学校	韓国・中国・ 福岡(太宰府市)	韓国初等学校との児童相互訪問・教員同士 の情報交換等国際交流活動
	宮古島市立下地中学校	台湾・ 沖縄(宮古島市)	台湾の中学とのホームステイ・体験授業・ 交流会を通しての国際交流事業、 台湾大地震救済の募金活動
	甘木市立馬田小学校	カンボジア・中国・ 福岡(甘木市)	国際交流体験学習、国際ボランティア募金 活動を通しカンボジア・中国の小学校との 国際交流事業